

2022 年 3 月期第 2 四半期決算 電話会議 議事録 主な Q&A

日 時 2021 年 11 月 1 日 月曜日 17:00～18:00

○質疑応答○

Q1. 加工事業本部のコストアップについて

・原材料価格高騰に対し、業務用は都度価格交渉を行っている。コンシューマは、自助努力で補っているが、原材料価格、為替などがこれ以上悪化すると非常に厳しい。来期にかけての価格施策は重要な経営課題であると認識している。来期の原材料や電燃料等のコストについても相当なアップが想定される。

Q2. 加工事業本部の主力ブランド製造集中化やシナジー効果について

・シャウエッセンの製造ライン集中化は、下期より実施している。来期以降もその他主力ブランドのライン集中化を行っていく。加工事業本部のシナジー効果については、原材料高騰の影響はあるが、主にエクス・一時加工品で発現している。

Q3. 食肉事業本部の国産及び輸入食肉市況と食肉の輸入環境について

・ファーム事業は、国内豚肉相場が軟調に推移することや、飼料価格の高騰が影響する見込みである。輸入牛肉は調達価格の高騰が継続し、輸入環境は厳しい見込み。

Q4. 食肉事業本部のフード販売の見通しについて

・通期見通しは前期の反動や国産牛肉・輸入牛肉価格高騰の影響で厳しい。外食の回復や中計で示した重点チャネルでのシェアアップ、ブランド食肉の拡販などで収益を確保したい。持続的に成長するための販売体制を強化していく。

Q5. 海外事業本部の豪州の見通しについて

・豪州の生体価格は高値継続しているが、来年度は肥育牛の出荷頭数回復で、生体価格は落ち着くと考えられる。来期については、販売環境の注視は必要だが、仕入れ環境好転による更なる収益確保を目指したい。

Q6. 新型コロナウイルス感染症によるタイの生産の影響について

・タイの生産数量は回復しつつあるが、ワーカー不足は回復しておらず、来春までは影響が残る見込みである。このため海外事業本部のアジア・欧州事業は厳しい状況であり、加工事業本部の業務用販売にも影響がでている。

Q7. DX 費用について

・通期見込みで 11 億円改善しているが、今期の見込みを精査した結果であり、プロジェクト進捗は順調である。来期の DX 費用に関しては再度精査を進め、来期計画発表時に公表したい。

以上